授業科目名	星槎学	単位数	2
担当教員名	井上　一・安部　雅昭 蓮田　亮大・西永　堅	担当形態	オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

星槎学は「星槎共生スピリット」を提示する中心的な科目であるため、A から F までのすべての項目について関係し、それらを統合する役割がある。

授業の到達目標及びテーマ

（１）星槎の理念をわかりやすく表現した、星槎の３つの約束（人を認める、人を排除しない、仲間を作る）を理解し、その実践をめざす。

（２）星槎グループの創始者宮澤保夫が行ってきたことを通して、社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げることに挑戦していく社会的な意味を理解する。

（３）星槎の理念を身につけ、「共に生きる。共に育つ。」ことを目指しながら、「星槎の心」を理解し、社会に支えられ、社会を支える一員として、具体的な行動（自分事として）について、自分なりの共生科学を表現できるようになる.

「星槎の心」

共に生きることは人間の大切な徳である。共育は心の豊かさを生み、
共育は心の信頼を生み、そして共育は心の喜びを生む。
その精神を持つために「心の耕作」を続ける。

授業の概要

２１世紀に入って２０年が過ぎ、国内における阪神淡路大震災に始まり多種多様な自然災害の頻発、地球規模の深刻な環境問題、絶え間ない軍事的衝突、テロリズム等の中での深刻な難民問題等々の多くの課題に見舞われることになった。グローバルを席巻する金融市場主義の中での深刻な格差社会と、高度情報社会の中でますます混迷する国内外の政治情勢の中で、私たちはともすると、何に依拠して生きるべきかを見失い、孤立して立ち尽くしてしまう。また、現在はコロナ禍の真っ最中である。このような社会的状況だからこそ、人と人が支え合う社会的関係性を取り戻し、リアルな個と向き合い、そこから社会を変革し、人間として生き切っていくことが求められている。

そのための生き方のヒントを得るため、この星槎学では、星槎グループが、教育理念にあるように必要とされる人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現を目指し、それを成し遂げてきたことに注目し、その過程での様々な具体的なエピソードから、社会をダイナミックに変革していったあり方を学んでいきたい。

保育園、幼稚園、中学校、高校、専門学校、そして大学、大学院と多くの教育機関を有していることから「共生」の理念は国内での教育分野に限られたものと思われがちである。しかし、星槎は国内だけではなく、世界子ども財団の活動にみられるように世界の子どもたちのために充実した教育（スポーツ・芸術などを含む）と医療・福祉の環境を整備するとともに、人材、特にその国の将来を担える若者の育成と就労の場を設ける仕組みを構築する活動も行なっており、星槎の「共生」の理念はグローバルかつ多岐にわたって展開されているの

である。
　こうした星槎の歴史や取り組みについて知るとともに、「共生」や「共感理解教育」といった教育理念について学修し、そこにおける「星槎らしさ」は何であるのかを体得し、現代社会と、未来における、さまざまな困難に対して、受講生が、主体的に問題に取り組んでいくことへの示唆を得ることで、それぞれの受講生が捉える「星槎らしさ」の実践を目指したい。

授業計画
第１回：「星槎」の由来と意味
第２回：星槎の「建学の精神」、「教育理念」
第３回：星槎の「教育目標」、「校訓」
第４回：星槎の歴史１（昭和）
第５回：星槎の歴史２（平成）
第６回：星槎の組織
第７回：星槎グループ創設の理念
第８回：星槎グループが目指すもの）
第９回：共感理解教育１（理念と概要）
第１０回：共感理解教育２（自利利他の精神）
第１１回：共感理解教育３（共感理解教育とＡＴＴ）
第１２回：　共感理解教育４（場所文化）
第１３回：　共感理解教育５（インクルージョン教育との関係）
第１４回：共感理解教育６（国際理解と共生）
第１５回：「メト・ペマ村」構想
定期試験

スクーリングでの学修内容
　星槎の歴史は、その建学の精神にある通り、「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」そのものであり、社会のニーズ（必要性）を敏感に感じ、学校や社会から光がなかなか当たらなかった子どもたちに光を当てるために、子どもたちのために法令を積極的に学び、従来の枠組みではない新しい発想の学校を実現させ続け、教育界に対して本質的な問題提起を行っている。
　こうした星槎を支えている「理念」について学修するとともに、日本が抱える教育だけに限らず、さまざまな諸問題について「共生」の観点から社会変革を考察する。
　（第１回から第１５回全ての内容を横断的に含む。）

教科書
（１）宮澤 保夫『人生を逆転する学校　情熱こそが人を動かす』角川書店
（２）宮澤 保夫『必要なところに私は行く―そして必要なことをする』丸善雄松堂

参考文献
（１）宮澤 保夫『宮澤の独り言』星槎大学出版　2010　ISBN コード　9784877383794
（２）宮澤 保夫『関わりあいわかち合う教育－本日の会長コメント』遊行社　2012 年
（３）星槎グループ（宮澤保夫監修）『「行きたくない」が「行きたい」に変わる場所
　　－こんな学校があってもいいんじゃないか!』小学館　2018 年
　　ISBN 9784098401901

学生に対する評価
スクーリング評価（２５％)、レポート評価（２５％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。